

SSKU

みんなの輝け

（社福）かがやけ福祉会ニュース No.164

編集 （社福）かがやけ福祉会 〒124-0021 葛飾区細田3-5-3

電話:03-5668-1146/FAX:03-5668-1147/電子メール:kagayake01@jcom.zaq.ne.jp
http://kagayakefukushikai.or.jp/



かがやけ共同作業所では、新型コロナウイルス感染症についての学習会を開き、手洗いの大事さなど感染症予防について確認しました。昼食時もスクリーンやフェイスシールドを使用し感染予防に取り組んでいます。

表紙：かがやけ共同作業所 コロナ学習会

2 ページ：かがやけ福祉会 2019 年度決算報告

3 ページ：かがやけ福祉会 2020 年度事業計画

4 ページ：コロナ対策 グループホームの実情／喫茶ファリーヌの今
募金報告／編集後記

2019年度 決算報告

社会福祉法人 かがやけ福祉会

資金収支計算書

自：平成31年4月1日 至：令和2年3月31日

単位：千円

	予算	決算
事業活動による収支		
事業活動収入計(1)	445,192	445,748
事業活動支出計(2)	402,343	389,863
事業活動資金収支差額 (3)=(1)-(2)	42,849	55,885
施設整備等による収支		
施設整備等収入計(4)	16,807	16,802
施設整備等支出計(5)	32,697	32,603
施設整備等資金収支差額 (6)=(4)-(5)	-15,890	-15,802
その他の活動による収支		
その他の活動による収入計(7)	1,664	1,001
その他の活動支出計(8)	28,623	28,627
その他の活動資金収支差額 (9)=(7)-(8)	-26,959	-27,626
予備費(10)	0	0
当期資金収支差額合計 (11)=(3)+(6)+(9)-(10)	0	12,457
前期末支払資金残高(15)	174,543	183,492
当期末支払資金残高(14)+(15)	174,543	195,950

事業活動計算書

自：平成31年4月1日 至：令和2年3月31日

単位：千円

	本年度
サービス活動増減の部	
サービス活動収益計(1)	440,318
サービス活動費用計(2)	396,743
サービス活動増減差額 (3)=(1)-(2)	43,575
サービス活動外増減の部	
サービス活動外収益計(4)	5,429
サービス活動外費用計(5)	4,529
サービス活動外増減差額 (6)=(4)-(5)	900
経常増減差額(7)=(3)+(6)	44,475
特別増減の部	
特別収益計(8)	16,802
特別費用計(9)	15,788
特別増減差額 (10)=(8)-(9)	1,014
当期活動増減差額 (11)=(7)+(10)	45,489
繰越活動増減差額の部	
前期繰越活動増減差額(12)	141,527
当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	187,017
基本金取崩額(14)	0
その他の積立金取崩額(15)	1,002
その他の積立金積立額(16)	26,300
次期繰越活動増減差額 (21)=(16)+(17)-(18)+(19)-(20)	161,719

貸借対照表

令和2年3月31日

単位：千円

資産の部		負債の部	
流動資産	227,390	流動負債	42,608
固定資産	588,598	固定負債	35,654
(基本財産)	288,732	負債の部合計	78,262
(その他の固定資産)	299,866	純資産の部	
		基本金	75,508
		国庫補助金等特別積立金	274,414
		その他の積立金	226,084
		次期繰越活動収支差額	161,719
		(うち当期活動収支差額)	45,489
		純資産の部合計	737,726
資産の部合計	815,988	負債及び純資産の部合計	815,988

財産目録

令和2年3月31日

単位：千円

資産・負債の内訳	
流動資産	227,390
固定資産	588,597
基本財産	288,732
建物 かがやけ共同作業所	123,786
かがやけ第2共同作業所	155,750
エタンセール	9,196
その他の固定資産	299,865
建物	19,109
車両運搬具	10,673
器具及び備品・ソフトウェア	15,520
建設仮勘定	1,804
権利	605
積立預金	226,084
退職共済掛け金	25,174
差入保証金	895
資産の部合計	815,988
流動負債	42,608
固定負債	35,654
負債の部合計	78,262

2020年度 かがやけ福祉社会事業計画

◇はじめに

2020年度は、コロナ禍の中で幕を開けました。昨年度末より猛威をふるっている新型コロナウイルスは、その後も収束することなく、日常的な活動、生活を脅かし、長期化する様相を呈してきています。私たちの法人でも、感染をもちこまない、広めない取り組みに全力を挙げています。まさに障害のある人、家族、職員、多くの方たちの命と生活を守るために、みんなで力を合わせ、奮闘しているのです。しかし、私たちの力ではかなり限界があり、感染が広がるなかどう対応していけばよいのか、見えない恐怖と見通しのない日々々に不安、あせりなどがたまり、疲労の色もみえてきています。

今は、精いっぱいやれることをしながら、多くの人とこの状況を共有し、行政に対し、今の状況を多めに訴え、責任のある対策を講じてもらうこと。それがこの現状を打開し、障害のある人地域、多くの方たちの命と生活を守ることにつながるのだと思います。

2020年度は、新たな試練に対する取り組みが求められることとなりますが、更に多くの人とつながりながら、みんなでこの危機を乗り越えていきたいと思います。

1. 法人本部の2020年度重点方針

- ・5か年計画（2017年から2021年）実施状況を確認。評価検討し、事業を推進していき、次の5か年計画に反映していく。
- ・10か年財政計画の推進状況の確認と今後の計画推進のための改革案の模索。
- ・事業を担う人財の確保の工夫・人財育成のための研修方法の検討。
- ・地域との連携を深め、地域の中で協力・連帯した取り組みを行う。具体的な取り組みの検討と実施。
- ・職員が安心して長く働き続けられる職場づくりの推

進。

2. 各事業所の2020年度重点方針

- (1) かがやけ共同作業所
 - ・高齢化や障害の重度化に対応し、健康や機能維持のための個別プログラムを充実させ取り組みをすすめる。
 - ・医療的ケアが必要になった利用者に対応するため、講習の受講を積極的にすすめる、受け入れ環境の整備を行う。
 - ・利用者、家族の高齢化に伴い要望が増えることが予想される後見人制度やグループホーム・入所施設等のサービス利用について、知識を広げ積極的に支援する。

- ・多くの方に事業所の活動を理解していただくために、ホームページの更新と内容の充実を図る。
- ・職員が共通の知識を持って支援にあたれるように、インターネットのウェブ講義を活用し、定期的に職場学習会を行う。

- (2) かがやけ第2共同作業所
 - ・利用者工賃アップに取り組み。また、一人一人に合った創作クラブの取り組み方や作品作りの充実を図る。
 - ・保護者と作業所、保護者同士の情報交換の場、保護者にとって居場所の一つとなるよう班ごとの保護者会を開催する。

- ・地域の方たちにもっと「かがやけ」を知ってもらえるよう作業紹介のチラシとかがやけニュースの配布に取り組み。
- ・新たな職員体制となるため、実践の基本を年度初めに計画を立て職員全員で学ぶ。

- (3) グループホーム
 - ・入居者一人ひとりに新しく挑戦できるものを準備し、生活の幅を広げ、生活の質の向上を目指していく。

- ・各ホームの支援者会議の定期的開催と内容の充実を図り、職員集団が同じ目標にむかって、支援できるようにしていく。非常勤職員の学習会参加への促進やホーム全体での事例検討発表会を実施し、職員集団の質の向上と職員一人一人の支援技術の向上を図る。

- ・リクエストメニューの導入や、1日、1週間の生活の見通しがもてるような工夫を取り入れ、自分で選べるものを増やし、主体的な生活が送れるようになっていく。共同生活の良い点、協力し合うことや相手を思いやるなど、場面を設定しながら、楽しい生活を送れるようにしていく。
- ・エタンセルにおいて、医療ケアとなったなかまへの対応として、東京都の介護職員等によるたん吸入等の実施のための研修を職員が受講できる体制をとり、更に今後のなかまの医療的ケアに対応できるように職員のスキルアップを図る。
- ・保護者懇談会を実施し、普段のなかまの様子を伝え、保護者との交流を深める。
- ・地域の方との交流を深める。地域交流会の中で、地域との団体との取り組みをするなど、新しい企画を模索する。
- ・各ホームの支援者会議の定期的開催と内容の充実を図り、職員集団が同じ目標にむかって、支援できるようにしていく。非常勤職員の学習会参加への促進やホーム全体での事例検討発表会を実施し、職員集団の質の向上と職員一人一人の支援技術の向上を図る。
- (4) 相談支援センターかがやけ
 - ・障害のある人がその人らしい生活が送られるよう障害福祉サービスの利用や社会資源等の活用を図る。
 - ・家族の願いを大切にし、気軽に相談が出来るよう情報の提供を図る。
 - ・地域の在宅障害者の計画相談件数を増やすとともに、地域の拠点となるよう相談支援の充実を図る。
 - ・適切な相談支援を行うため研修・学習会等に主体的に参加し、支援技術の向上を図る。



「コロナ対策」グループホームの実情

今年に入ってから猛威を振るっている「新型コロナウイルス」ですが、グループホームではこれまで様々な対策をしてきました。障害のある方の共同生活の場ということもあり、感染を完全に防ぎ切れない難しさがありながらも、「できる限りの対策はやっていこう」とホーム全体が一丸となり、日々変わっていく状況に目を向けながら対応をしてきました。

そのような中、7月に入りホームの利用者の方が発熱し、熱が下がらないことから内科を受診しました。そして、医師の診断で葛飾医師会でのPCR検査を受けることになりました。PCR検査は以前に比べると比較的受けやすくなってきたものの、内科を受診してからPCR検査を受けるまで4日間待つこととなり、その対応の遅さをまざまざと痛感しました。

発熱してから検査結果がでるまで一週間という長い時間を要しましたが、その間そのグループホームはロックダウンし、陽性になった場合のシミュレーションやその利用者の方の支援にあたる職員を限定したりと、それまでとは一変したグループホームの生活に変わりました。

今回は「陰性」という結果で終わり安堵したところではあります。これで終わったわけではなく、むしろこれから（今現在も）も安心できない状況が続きますが、日々の状況の変化に迅速に対応できるように、最善の対策をしていきたいと思えます。

また、今年度は、ホームの全体行事がすべて中止になり、これまで利用者の方たちが楽しみにしていたものが全てなくなってしまうました。まだまだ収束するまでには時間はかかりますが、来年度はまたホーム全体での行事が行えることを願う

ばかりです。

（文責…グループホーム副施設長 小川泰弘）

喫茶フアリーの今

かがやけ第2共同作業所の喫茶フアリー又は、4月の緊急事態宣言が発令されてから2か月間休業し、6月から営業を再開しました。しかし、新型コロナウイルスの感染予防のため、イートインでの利用はせずテイクアウトのみ、営業時間も11時から14時までと短縮しています。店内も感染予防として店員はマスクと手袋を着用し、お客様に飛沫が飛ばないよう透明なシートを張っています。テイクアウトのみの利用のため、現在は4種類のお弁当（日替わり弁当・肉か魚、ロコモコ丼、カレー丼）に各種飲み物、お菓子班で焼いた様々なお菓子を販売し、少しずつですがお客様が増えています。

お客様の中には「前を通ったことはあったけど何をしている所か知らなかった。ぜひまた利用したい」とお声かけいただくなど、これまでの常連のお客様に加えて新しくフアリーを知っていたり、だく機会ともなり本来の喫茶フアリーとしての営業はまだまだ再開できませんが、お客様とのかまの安全を保ちつつ、美味しいお弁当やお菓子を販売していきます。お近くにお寄りの際はぜひご利用ください。

（文責…お菓子班 伊藤有美）



^^かがやけ募金ご報告^^

二〇二〇年五月一日〜
二〇二〇年六月三十日
【193, 177円】でした。
あたたかなご支援、
誠にありがとうございます。

【編集後記】

かがやけ共同作業所の鳥海です。今年度も「みんな輝け」の編集を担当させていただきました。よく頑張りました。よろしくお願致します。

ここ最近、「オンライン」、「リモート」という言葉をよく耳にしますが、編集担当者の中でも、ビデオ通話を使用して編集会議を行い、働き方の新しいスタイルを実践しました。

先の予定や見通しが持てない日々が続いておりますが、早く終息に向かうように、願っています。皆さまも今後も、体調に気を付けて、健康にお過ごし下さい。

（文責…かがやけ共同作業所 鳥海）